

第3回旧端出場水力発電所保存活用検討委員会議事録

日 時 平成23年7月8日(金)
10時00分～11時30分
場 所 市役所3階32会議室
出席者 7名(亀井、仙波、薦田、杉本(委員長)、吉川、鴻上、沢田)
欠席者 3名(船越(副委員長)、土岐、田中)
事務局 別子銅山文化遺産課 横井(課長)、加藤

委員長 久しぶりの会でございますが、皆様ご苦勞様です。ただ今から、第3回新居浜市旧端出場水力発電所保存活用検討委員会を開催いたします。お手元の議題に則って進めたいと思います。アンケート結果についてですが、皆様にとっては急なことと思われるかも知れませんが、その経過も含めて事務局からお話しをお願いいたします。

課長 3月に会を開いてから時間が空いてしまったのですが、その間、環境自治体会議が新居浜市で開かれていまして、その中で特別セッションとして、元朝日新聞におられた白鳥先生をコーディネーターに招いて、住友金属鉱山、住友林業フォレストサービスや別子銅山記念館元館長などに参加いただいて、スペシャルプログラムを催したりしておりまして、時間が空いてしまったことにお詫び申し上げます。その会ならびに先日の新居浜駅90周年ということで「駅フェス」と略して言うておりますが、そのフェスティバルがありまして、その入場者の方にもアンケートを実施しました。書いていただいたのがこのアンケートです。その後も引き続き、アンケートを別の会の80人以上の方にも書いていただいたり、アンケートは今後も協働オフィスにも置かせていただいたりして、最終的にはもっと数を増やしたいと考えています。アンケートの全体像ですが、お配りしております資料にあります。318人のアンケートが反映されております。年齢構成としては、40代、50代、60代、70代ということで、会の性質もあったかと思いますが、年配の方が多くなっています。新居浜のイメージについてもアンケートを取らせていただきましたが、会の趣旨もあったかと思いますが、別子銅山84%ということで、別子銅山、太鼓、企業城下町というイメージが市民の方にも定着していると思われま。それと、別子銅山と聞いてイメージするものとお尋ねしました。複数回答可でしたが、人気の東平地区が他と比べて断トツに多い。次は旧別子。新居浜ではないですが、四阪島が多かったかなということです。それらの産業遺産の中で訪れたことがあるのかということでこれも複数回答可でしたが、多かったのが全部行ったことがあるという人でした。その中でもマイントピア別子が9割近く。あとは広瀬歴史記念館や別子銅山記念館です。この3つが中心で、あとは東平ということの傾向がはっきりと表れているのかなと思われま。具体的に問6で旧端出場水力発電所をどのようにしていったらいいですかとご自由に意見を書いてくださいということにしました。その結果、色分けして整理したのがお手元の表になります。意見を書いていただいたのはかなり関心が高い方だと思います。それらの方の中で保存と書いていただいたのは左端を青く塗っている部分なのですが、30人書いていただいた内、産業遺産としてそのまま残してほしいと、あるいは保存とだけ書いていた方もおられますが、

具体的には、あまり手を加えないと。現状のまま、そのまま、日常的に活用することは考えないという方もおられました。そのまま、現状のままという意見の方が、14名同じような意見の方でした。それと活用方法ですが、保存とも関わってくるのですが、書き込んでいただいた方が60名おられました。その中でも博物館という視点、教育の場として書かれた方がおられ、時期が時期だけに水発は稼働できないのかという意見の方もかなりおられまして、そのような水力発電の歴史を踏まえて見せるようにしてはどうかと書いていただいた方が22名。あと、カフェや写真ギャラリー、レストラン的な利用を書かれた方が9名となっていました。公開の方法ですが、とにかく公開してほしいという人がほとんどなのですが、マイントピアと一体利用、マイントピアとの連絡橋と、この検討委員会でもそのような意見が多かったのですが、マイントピアという言葉を入れて書かれた方が書き込んでいただいた69件の内16件ということで、やはりマイントピアと一体とした公開、とにかく公開してほしいというのがかなり多かったので傾向として見えていたかなと思います。アンケートの結果は以上です。

委員長 ありがとうございます。それではアンケートについてご質問はございませんか。ご意見、ご感想はいかがですか。事前に資料はお目通しいただいていると思いますので、感想を一言ずつお願いいたします。吉川委員からお願いします。

吉川 非常に我々と同じような感覚を持っておられるなど感想は持ちました。アンケートですから、ピントが外れているなどというものもありますが、要約するとそういうことでございます。

委員長 薦田委員さん。

薦田 このアンケートは選択式とか、自由に書いてくださいとか。

課長 問6の端出場水発については自由に書いてくださいで、あとは選択式です。

薦田 ある程度問題点を提示しておいて選んでもらった方がいいのかな。一般の方は自分で考えていけばいいのですが、案外考えていない方もおられるので。

課長 なかなか、会の出席時に書いてもらっているの。

薦田 種を与えて、それから選んでもらったら、むしろいいのかなと思います。反対意見も含めて。市民全体にするのだったら、例えば、連合自治会の自治会長さんの会があります。その会で会長さんに代表して書いてもらおうとか。ある程度の質問をして集めるのも一つの方法です。

沢田 アンケートを採ったのがフォーラムの中だと思いますので関心が高い人が来ているということで、発電所についてもかなり関心が高くて公開してほしいという意見が多いと思います。できるだけそのまま残してほしいという意見が多いので、これについては文化財を担当している課としてはそのまま保存という方向がいいかなと思っていますので、市民の方の意見と同じかなと思いました。

鴻上 私も観光を所管する課としては観光施設としての活用という非常にありがたいのでマイントピアと一体というところはその方向でいけたらいいのかなと思います。それと保存方法、現状維持という意見が多いのですが、やはりそうかなと私自身、個人的に思っています。活用方法というところで、発電所として発電したらどうかという意見もありますが、技術的にはどうなのですか。できるのかどうかということですが。

課長 今日土岐委員が欠席ですが、お尋ねしたところ、揚水することができないし、発電を昭和45年に止めてから年月が経っているので巻き替えてすべてやるとなったら、それは新しいものなのでシーメンスの発電機とは言えないのでそれは文化財としての保存ではないということで、事実上は無理だろうなどのご意見はいただいております。

吉川 専門家として言いましたら絶対駄目です。まず、水圧がある水がございません。それが無いのですから不可能です。回すだけだったら回せるでしょう。

薦田 見せるためだったら、模型のようなものではできますよね。

課長 水力発電のしくみでしたら展示でできると思います。

吉川 実際に水車を見せるとかの方法を取れば、もっと分かりやすくなると思います。

薦田 中七番からの水路とか、高低差の数字が出ていますが、すごい工事だったということ売りにしたらいいかもしれない。

委員長 よろしいですか。鴻上委員さん。

仙波 考え方は同じで、マイントピア別子と一体ということで、マイントピアの駐車場に止めて、こちらと回遊性を持たせて回れるようにするしくみにしてはどうかと思います。活用方法についてはアンケート結果が出ていますが、この中から絞って検討してはどうかと思っています。

委員長 そんな多く方向性は違っていないという大ざっぱな集約になろうかと思っています。今後の検討の中でも頭の中に入れて進めていきたいと思っています。アンケート結果については以上で終わりたいと思っています。アンケートの今後の取り扱いとか、今後、アンケート的なものを市民に対して考えているのかについては事務局いかがですか。

課長 先ほども申し上げましたが、いろいろな会を利用させていただきまして、アンケートの数を増やすこととしております。なぜこれをしているのかということですが、今年度中に別子銅山総合整備計画を作成する予定にしております。整備計画の作成に、市民のアンケートによる意見を反映させたいということです。また、この検討委員会ともう一つの検討委員会である山田社宅の意見も整備計画に反映させたいと考えています。所有者である住友の意見もお聞きする場も何度かしなければならぬと思っております。

委員長 こういうことですのでご承知おきください。

吉川 これに関連して、別子銅山整備計画を進めていこうということですが、それとこの会がどのようにマッチングするのかということですが、この総合整備計画そのものが近代化産業遺産の目的ですね。反対側では観光とかの発言が出てきます。そのあたりはここで話することかどうかは分かりませんが、中でもう少し詰めていかないと、目的があちこちに飛んでいく気がするのですが。

課長 近代化遺産の計画は指針的な話で、端出場水発、山田社宅については具体的な話が入ってくると思っていますが、近代化遺産を保存するにしても活用するにしても、観光で使うにしても、一つの考えとしてはこれまでも市長が話しているのですが、ゾーン分けをする考えがあるかと思っています。マイントピアでお借りしている端出場と東平の物件という観光で使っている物件とそれ以外の物件とか、教育の現場であるいろいろな館であるとか、それらは詳しい方はご存じだと思いますが、そのあたりのゾーン分けとか、旧別子という住友にとっても特別な位置にある場所もあります。また、筏津の開発は以前から話が出て

おりますが、いろいろな問題も抱えているということの整理したうえで、過去の計画書についても、一般に認識されていない状況であり、それらもきちんと示したうえで、整理して、新しい指針を出したいと思っております。

吉川 我々としては漠然としているのですが。

委員長 全体構想の進め方と位置づけが見えてこない。

課長 ある程度まとめた状況で、端出場水発の方向はこういうことだという具体的に書いたものがないことにはと思っていて、それでいいのかをこの場で判断してもらうのが正しい方向なのかなと思っています。

委員長 そういうことも努めて、意識しながら、進めていきたいと思えます。吉川委員、よろしいですか。

吉川 はい。

委員長 それでは、本人がいらっしゃいましたので、委員の委嘱換えについてですが、委員は市長の委嘱でございます。今回、亀井さんに委嘱換えということでございますので、自己紹介をお願いいたします。

亀井 まずは遅れて大変申し訳ありませんでした。委嘱換えということですが、新居浜市観光協会の前専務理事の佐々木さんが5年間勤められました。佐々木さんの職責で僕ができるかわかりませんが、水力発電所が新居浜市のものになったということで検討委員会を立ち上げられておりますが、観光サイドから、利活用という面から、意見が言えればいいかなと思っていますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

課長 アンケート結果について、亀井委員から意見などございましたら、一言いただければと思います。

委員長 感想を簡単にいただけますか。

亀井 読みながら思っていたのですが、やはりマイントピアと一体にした方がいいのではないだろうかと思います。観光サイドからいくと、一体にした方がいいと思います。今ちょうど、エネルギー問題が原子力発電関係で出ていますが、子供たちに見せてやって、水力発電の歴史を勉強してもらうのがいいのではないかと思います。

委員長 それでは、3番目の議題、今後の予定等について、事務局から資料説明も含めてお願いします。

課長 今後のスケジュールの前に、今までこの端出場水力発電所については、いろいろと話が出ては消えて、20年も前から話があったのですが、昨年いただいてから、登録有形文化財になり、具体的に進んできたわけですが、過去に計画書が出てきましたのでご説明したいと思います。マイントピア別子を始め、当時、「南部観光レクリエーション」という大きな話のもと、動いておまして、これは昭和63年の時点だったのですが、この図にありますとおり、右に斜張橋がありますが、端出場とマイントピアの間にも橋が架かっているということで、当時から、全体計画としてはここに橋を架けたうえでの端出場水発の活用を考えていました。昔は、ビール園という声もあったと記憶しております。実現できた部分とできなかった部分があるということだと思います。次に水車の問題でして、元々、東予製氷所の水車をどこかに持って行かなければならないということで、当時の担当が協議したのが、「山と人のミュージアム」という計画だったようです。その中で水車小屋を建て

て水車を持って行くと。それと共に、この計画にも吊り橋が書かれていまして、具体的に、吊り橋の立面図までつくられていたようです。これらについても、水発の中には変電設備がありましたことなどの問題により、水車小屋以外は実現できていませんでした。これらが過去の計画と結果です。次にイメージスケッチとありますが、この時の計画では発電機以外は撤去ということで、あまり今の状況とは合っていないのかなと思います。当時はこのような計画があったということのご説明に留めたいと思います。

提示しているスケジュールですが、私共の課では専任職員2人ですが、土木、広報、観光、建築、教育などから併任職員を仰いでいる中で、課内の協議のうえ、一つの指針として、このような案でいくのではどうかという漠然とした案です。年度は入っていますが、右の下の改装計画作成までの予算は組まれていません。茶色の部分は、去年予算を取って実施した内容です。22年度については周辺の伐採と、アクセス路は南側からのルートが採れないのか、特に障がい者の方たちが車いすで降りられることが可能かどうかの調査も含めまして、アクセス路の調査を行いました。最終結論としては8%程度の傾斜となりまして、南から入る道はつづら折りにしても、付添いの人が降ろすのは無理だというのが今年に入ってから入った結論です。23年度の青い部分は、今年、予算取りしている内容です。一つは法面の調査です。以前にご覧になっていたのですが、県道との中の法面が16年の台風の時に崩れていまして、まずは本館の安全性を考えると、直すのが先だろうということが、文建協の方の目視の報告でも指摘されております。すでに具体的な調査を行いまして、その結果に基づいて、法面修復はもちろんのこと、水路を付けたいとか、都市計画の担当者にまとめてもらって、可能であれば9月に予算要求したいと考えております。法面工事、管理用道路の工事、これらを予算を取って実施したいと担当課としては考えております。あとは本館調査ということで、本館調査、機器調査、それから貯水池、導水路の調査と、これらについてですが、本館調査は8月に京都工芸繊維大学の矢ヶ崎准教授、この方は山田社宅、広瀬邸調査も手掛けられた方ですが、この方のゼミで調査に入っていて、足場も8月当初から1カ月間、組んで集中的に調査を行いたいと考えております。その中では実地調査に併せて、耐震という問題、レンガという構造物そのものが、そもそも耐震には適さない物件であるということで国土交通省サイドではそのような意見ではありますが、それを言っていると、ほとんどの文化財が、木造建築も含めて、公開が無理だとなってくるようなことになりかねません。このことも含めて、文化庁のご意見も伺いながら、進めていく必要があると考えております。そのうえで、調査報告書を作成したいと考えております。調査報告書に関すると、新しい資料が住友共電で発見されたので、かなりの分量が出てくるのではないだろうかと考えております。公開という部分ですが、これまでもいろいろな団体からの申し込みを受けておまして、できるだけ応じるようにしておりますが、基本的には頼まれれば公開したいと思っておりますが、そのような問題もあって、地震というのはいつ起きるのか分からないものですから難しい面もあります。とにかく本館の調査報告を待ちたいなと思っております。その後、報告を受けまして、この予定では25年以降になっていまして、修復工事をしなければならないと思っております。特にこれ以上傷まないためにということで、何に使うとか、補強も入ってきますが、文建協の方の目視もありますが、明らかに、屋根、樋、窓枠とかで、内装とか外壁はどうする

のかは今後話していかなければならない部分もあろうかと思いますが、とにかく、これ以上傷まないようにということを念頭に修復工事が必要だと思います。この修復工事を進めながら、改装計画で何に使うかになってくるかと思いますが、改装計画も作成していかなければならないと思います。それに伴う改装工事があって、できれば本格的な公開をしていかなければならないと思っています。アクセス路については、スケジュール案では27年とありますが、アクセス路の問題では時期のご意見をお伺いしたいのですが、これはもっと早くした方がいいのではとのご意見もあろうかと思いますが、これについてはお聞かせ願えればと思います。それと、先日、7月1日に、以前にもご紹介しました八百津というところの水力発電所を見学させてもらいに行きました。これは明治44年完成の重要文化財なのですが、昨日も末岡先生とも話をしたのですが、端出場水発の特徴というのは、鉦山の電気を賄うための水力発電所なんだということを押さえなければならぬと。こちらは関西電力の水力発電所なので、前を流れる木曾川水系のかなり大きい水力発電所で、いわゆる送電棟と発電棟の2棟がくっついた形となっております。この写真を見ても、ものすごく大きいです。発電関係だけでも端出場の1.5倍はありまして、当時、アメリカのモルガンスミスの発電機が入っていたようですが、今ここで展示しているのは、その後、大正時代に入った東芝の発電機で、1基あたり3200kwなので、端出場は1500kwですから、かなり大きいです。まさに倍はあるというのが実感として分かりました。そんな発電機がここに3基あって、水車については1基について、囲んでいる部分を外して中を見せているという展示をしております。スペースがありますので、元々、ここは郷土資料館だったようですが、町民のギャラリーと木曾川の暮らしのようなものを2階や1階の入口付近にも併せて展示をしております。ここは関電から土地も含めていただき、平成6年から10年にかけて、周りの公園なんかも含めて整備したようです。この時期に報告書を作成したようですが、神戸の震災や東日本の震災の前なので、今は公開施設にしておりますが、耐震ということは実施していないとのこと。レンガの上にモルタルを固めた発電所なのですが、耐震を実施していないので、この公開がはたして適しているのか、担当者としては悩みの種との発言がありました。一つの参考にはなるのかなと思います。

委員長 はい、盛りだくさんの報告があったのですが、最初63年の当初の南部観光レクリエーション開発事業化計画書、当時こういう計画をしていたということの説明ですね。

課長 これはJTBが入って、マイントピア計画と考えてもいいのですが、南部観光レクリエーションゾーンとしての開発がマイントピアの開発だということです。その中には端出場水発を加えたうえで橋の計画もあったということです。

委員長 それで実際には諸般の事情でできていないと。水車の移設ですか。

課長 水車の移設は別途、南部観光とは別に、森と山と人のミュージアムというのが道路課サイドから出たようです。計画があったようなのですが、それでは水車小屋だけを施工して、後は実現していない。

委員長 そういことですので、これについては参考程度ということですね。

課長 そうです。参考程度です。

委員長 当時、吊り橋の図面もあるようですが、費用についてはいかがですか。

課長 全体で1億弱です。

委員長 吊り橋も入れてですか。

課長 吊り橋も入れてです。

委員長 そういうことですので参考に見ておいてください。それなりのことを当時間も計画されていたようです。それでは課内案ということで今後の整備スケジュールについてご説明がありました。要は本館調査が一番急がれるということになると思いますが、ご説明いただいたことで、まずご質問がございましたらどなたからでもお出しください。

吉川 よろしいですか。

委員長 はい、どうぞ。

吉川 本館調査をするということは公開をして皆さんに見せようというお考えですか。

課長 はい、事務局としてはアンケート結果にもありますが、公開してほしいという声が非常に強かったので、公開の方向で模索していきたいと考えております。

吉川 私はその方針については別段、むしろ賛成でございます。

委員長 今、肝心なお話が吉川委員から出された訳ですが、みんな何となくその方向は向いている訳です。

課長 前回は、鴻上委員から、公開するにしても安全安心を担保が大切であるといったご指摘がありました。皆さん、公開という方向だと思います。

委員長 吉川委員が言われたとおり、検討委員会では公開する方向で、指摘された安全安心とか、そういうことはベースになることですが、そのことも含めて今後検討していこうということであります。その方向についてはよろしいですね。ベースになるのは本館調査結果、調査の中身がどうなのかと、中身がどんな結果になるのかが皆様方の関心だと思いますが、この調査に関してご質問、ご意見、こんなことはどうなっているのかとか、特に耐震関係のからみ、今日的话题としては、こういうことで調査に関してご意見等ございませんか。

亀井 よろしいですか。

委員長 はい、どうぞ。

亀井 耐震調査というのは大事だと思いますが、建物と下の土地には水管もあるので、そのことはどのように考えていますか。

課長 地盤調査は実施したいと考えております。えんかつ山でも実施したのですが、レンガ自体はレンガの調査をするし、地盤の調査も併せて行うことにしております。

吉川 調査をするところは、何がご専門の方ですか。

課長 建築の専門家です。

吉川 建築の構造のご専門家ですか。

課長 工芸繊維大学なので、耐震については詳しい先生にお願いしてもらおうといった体制が取れます。

吉川 発電所でございますから、下からコンクリートで積み上げてございます。基礎がどうだという話は、全く論外で大丈夫だと思います。レンガは古いものです。ですけれども、少なくとも、相当しっかりした造りになってございます。特別、クラックがあるわけではなく、そちらにお金をかけるより、そういう古いものを使う時は、他所ではどういように判断して使っているかを力点を置いた方が私は早いのではないかと思います。

課長 レンガ自体は目視した限りではかなり良いのですが、数値としてきちんとするので、費

用そのものは文建協のようなところではかなり高いので、今回は先生が指導しているゼミの学生たちが教育を兼ねて行っていただけるので、相当費用は抑えた状況です。足場自体はいずれにしても組まなければならないので、むしろこの費用がかかるのです。まずはきちんとした報告書を求めたいと思っております。

薦田 関東大震災以降、レンガ建屋は立てれないようになったという話もありますし、東南海地震も想定されますし、今では文化財指定されているものも含めて、地震対策しなければならないようなのですが、端出場で見せるとなると現状で、安全対策を何も考えない訳にはいけないと思います。建屋の中で、外もそうかもしれないが、とにかく、避難場所を考えておけばと思います。逃げれる場所というものもあるが、大きな地震があつて逃げる場所がないというのでは困るので、ここにいればいいというのがあればと思う。あまり文化財を変えてしまうと困るのですが。それと10月、11月に周辺伐採業務というのがありますが、これは計画通りにいくのですか。

課長 法面と併せて、予算取りしまして、基本的な考え方としては昨年の伐採もそうなのですが、公開当初の形にしたいと考えています。文化財、特に良い建物の見せ方としては、元々の形にできるだけ近づけるというのが一つの考え方でありまして、対岸のマイントピアからの良い見栄えを確保するのが当然考えられると思っております。できるだけそういった方向で進めていきたいと考えております。

薦田 昨年、写真展を行いまして、端出場水発の紅葉の写真はすごくきれいです。特に紅葉ですが、マイントピア別子側から見た時に、絵になるようにしていけばいいのではないかと。とにかく、河原からの雑木とか草とかは整理して、一つの景色として、絵に書いたり、写真を写したり、人の目が見て美観というか、もっと美観を意識して整理されたらいいのではないかと思います。あまり現状を崩すのではなくて。雑木とか。ヒマラヤシーダとかありますけれども、枝も適当に打って、要するにきれいな形にすればと思います。

吉川 本館調査をするのでしたら、床下の調査を入れてほしいと思います。中にはいろいろなダクトがあちこちに入っています。その整理された図面がないと思います。

委員長 調査関係について、しばらく意見をお聞きしておきたいと思っております。

亀井 よろしいですか。黒く塗っているのですが、戦時中の関係だと思っておりますが、それはそのままにして調査するのか、今、景観の問題も入ったのですが、あのあたりをどのように保存方針を決めて調査するのか。例えば、黒く塗っているのを落とすのか、僕は分からないのですが、僕自身もまともでないのですが、観光サイドとしてはそういう絵になったり、写真になったり、もちろん、イチョウとか桜とか、冬景色とか雪景色とか、絵になるのですが、どういう考えでしょうか。

課長 平成26年に外装掃除とありますが、そこは議論の別れるところかなと思います。一面では文化財の中に戦時遺産というのがありますが、そういう側面もあるのですが、文建協の目視をしていただいた方は、いずれにしてもクリーニングしなさいと。そんなものもあるそうなので、そのような意見を述べられておりました。内壁についても、いろいろとご意見もあると思いますが、ただ変に直すと台無しになってしまうので、そのあたりもこの検討委員会の中でいろいろとご意見をいただきたいと思っております。

委員長 鴻上委員さん、何かありますか。

鴻上 公開の方向という確認はできたのですが、こういった形で公開するのか、例えば、現状のままの公開なのか、建設当時の姿に戻すのかということの議論で、本館の修復工事の内容が変わってくるのではないかと思うので、このあたり検討が必要かなと思います。それと本館調査と併せて、アクセス路については若干早めにするのは、可能なかということもありますが、もう少し年度を早めにした方がいいのではないかと思います。

委員長 議論は後ですとして、沢田委員さん、どうでしょうか。

沢田 鴻上委員が言われたように現状のままですのか、当初の姿にするのかで工事の内容は変わってくると思うのですが、公開に向けて調査することなので、どれくらい今の状態を残したまま、耐震もしていくのだったら、外観を変えずにできるのか。耐震をすると外観はかなり変わってしまうのではないかと思うのですが。

課長 いろいろと話はあると思うのですが、私は外観を触るのはもってのほかだと思っています。中に人がいても、その人に屋根が落ちなければいいということを基本に考えていくべきかなと思っています。

委員長 最初に吉川委員から貴重な指摘があったのですね。発電所の建設自体が普通の建物と違うよと。発電所そのものが。それで他所の例はどうなのかということでした。他所の例は東日本大震災後の考えが変わっていますので。それと課長もおっしゃられたが、普通の建築の耐震と文化財的な耐震とでは考え方なり、今後の進め方なりが定かでないと思うのですけれども、肝心なことで吉川委員から調査のための調査でお金を入れるのはもったいないといみじくも言われましたけれども、そのあたりのバランスというのはかなり事務局の方で、庁内で検討されて、项目的にはこういうこともあるのだと思いますが、調査の深度と言いますか、方向性と深度というのは、委員の意見をお聞きしていると、もう少し検討されたらという意見があるようです。耐震という建築物だけの視点で調査して、見せる値打ちが何もなくなってしまったのではいけない。鴻上委員が指摘された安全安心をうたい、一方ではきちんとしなければならぬ。そのバランスというのは言うは易しで、結構難しいものがあるでしょうね。先生方とのすり合わせというのはどうですか。

課長 吉川委員が言われた他所の例と、今後、文化庁からも指針が出てくると思いますので、そのようなことも受けながら、最終、報告書に反映させなければならぬ。調査費についても、先ほど申しましたが、通常の調査費の恐らく4分の1程度に抑えた状況で行います。

委員長 それで、どれぐらいかかるのですか。

課長 調査報告書ができるまで2年です。実際に本館建物の結果自体は、今年中に、中間報告が出せると思っています。結果が分かり次第、説明させていただければと思います。

委員長 それと検討委員会の保存活用の方向性を出すのは。

課長 一つの参考資料とさせていただきたい。

委員長 タイミング的には委員会の進め方との関係はどうなりますか。

課長 本館の調査と結果が出るのは今年中になると思います。

委員長 今年というのは12月までですか。

課長 12月までです。それで、結果がよっぽど悪ければ、公開にいろいろと制限が加わってくるのですが、基本的にはこのまま進めればよいと思います。

吉川 私もそれは同じ考えです。あくまで持つもの（耐久性）であろうということで、話は進

めるべきだと思います。

委員長 いろいろとご議論いただきましたが、吉川委員が言われたことで、課長も言われたように、結果をもって云々ではなくて、同時並行的に公開できるという方向性の中で委員会に課せられた内容を詰めていくということによろしいですね。本館調査以外で仙波委員、何かありますか。

仙波 先ほど、鴻上委員から言われましたが、前倒しできるところは前倒ししてもらって、例えば、アクセス路とか、改装計画ももう少し早めに作っていただいて、本館公開をもう少し早めることはできないかなと思います。

委員長 事務局、どんな感じになりますか。方向性としては。

課長 そのような意見が出てくるのかなとは思っていました。

吉川 私もひとつあります。その点は私たちが発電所を見に行くにはどこに尋ねれば中をみせていただくのか分からない。ですから、それについては早く整理してマイントピアでもどこでも結構ですが、そこに頼めば中が見れると。公開する前段階でもかまいません。これは早くしてもらわなければと思います。

委員長 そのことはどうですか。

課長 早くそうしたいなど事務局としては考えている。予算のこともありますが。

委員長 部分公開については。

課長 部分公開は安全性を見ながら、今も、商工会議所とか生涯学習センターとか、そのようなところから依頼があれば公開の協力はしている。

吉川 今年の5月15日に近代の産業遺産を訪ねるという本が出ていますが、その中で、端出場の発電所は現在では新居浜市の所有となっているが、残念ながら公開されていないと。一番新しい本にそう書かれています。

委員長 今は学習的なことだけですか。

課長 今年はタクシー乗務員の方への研修が予定されています。私から、説明をする予定にしております。

委員長 一般的にはどうですか。

課長 一般的にはいろいろな問題がありますので、できていない状況です。

委員長 そのことも併せてですね。

薦田 修復工事が始まったら、まず、見れないですね。

課長 修復工事が本格的に始まったら、難しいかと思います。

亀井 実は私、姫路城の修復工事を見てきたのですが、修復工事をうまく見せているのです。今度はシャチホコも下に降ろしたので見に行きたいのですが、部分公開と本格公開というのですが、そういう工事も学習の場になるのではないかと思う。安全性の問題もあるのですが、興味を持っている人もいます。安全性を考えて部分公開なり、一部公開を。工事のあり方にも、無理な注文を言っているかとも思いますが、ご検討いただいたらと思います。

課長 姫路では非常におもしろい見せ方をされています。なかなか、場所の問題と制約も多すぎるので難しい部分もある。確かにえんとつ山の時にも地元の人中心にかなり興味もっていただきまして。索道を付けて上に荷物を揚げたのですが、その工事そのものも興味持っていた方もあるようで、今度発表もされるようですが、そのような人もおられますので、

可能な限り、そんなことも考えたいなと思います。

委員長 そのあたりよろしくお願ひします。他にございませんか。

吉川 もし修復工事まで言及して議論するのでしたら、すべてもう少し早めに持ってくるようにしていただきたいものだと思います。

委員長 事務局でアクセス路の関係なり、指摘のあった改装計画は事務的に障害があつてこのスケジュールになっているのではないのですか。

課長 それはありません。

薦田 本格的な修復工事に入る前に、関心のある市民に、こういう工事をするとのPRも兼ねて、広報を最大に活用して見てもらう機会を何回かしてはどうかと思います。新居浜の人は関心を持たないこともあります。関心を高めてもらうために機会を提供するというのも大事なのではないかと思います。

委員長 先に進んだ話になっておりますが、そのあたりは時代の流れの中で、市民、国民の目線が変わってきているのは事実です。姫路城の例ではないが、そのあたりも十分に検討してもらいたいと思います。検討されるということですのでよろしくお願ひします。それと、8月に本館調査は開始するのですね。

課長 開始します。

委員長 この部分の予算は取れているということですね。

課長 はい、そうです。

委員長 9月に予算要求できればというのは。

課長 法面工事です。周辺伐採、法面工事、管理用道路。法面工事の中に入ってくるのですが、水路、水を逃がすしくみですね。これらを併せて実施したいなと考えています。法面調査を受けて予算要求していきたいと考えております。

吉川 管理用道路とはどこのところですか。

課長 管理用道路とは北側の2階の本館入口がありますが、そこに向かって、県道側を一部開けさせてもらって、そこに道を付けて降りるようにしようかなと思っています。

吉川 2階の裏にですか。

課長 昔は水路と道があつたようですが、以前にはそこで変電所側と橋が架かつて、変電所と行き来できていましたが。

吉川 ただ、大勢が入るのでしたら、あの階段をどンドン歩かないようにしてください。危ないです。

課長 あくまで管理用道路ということですよ。

委員長 他にございませんか。

亀井 よろしいですか。

委員長 はい。

亀井 将来、観光に向けての公開ですか。どうでしょうか。今は学習とかですが。僕はマイントピアと一体という考えを持っています。たくさんの方が来られると思いますが、一つの入る施設ではなかろうかと思ひます。観光に耐えるだけの施設にするのでしたら、もちろん、アクセスも含めて、今の管理用道路では無理だということも含めて、どうかなということも議論してもらえたらと思ひます。申請があつたときだけ、お金を取って公開するのか、

このあたりも含めてどうなのかなど。観光のあり方でお金まで取ってするのか、それとも、無料で学習として申請があった分だけ公開するのか、また、マイントピア別子のように時間を決めてお金を取ってするのかという論議はどうでしょうか。

課長 それは大事な話の一つだと思っています。八百津では入館料320円、年間1600人ほどの入場者のようです。最寄りの駅からバスで30分かけて行ったのです。広瀬では年間8000人ほどだと思っています。アンケートの中には活用という名の転用をしないということを書かれた方もおいでます。このことはまさに議論していただきたいことと考えています。

委員長 それは最初から出ていますね。意見があったことはあった。きちんとここまでという線引きがされた議論ではありませんが。こういう形で見せるから、そのためにはこういう改修してということではしていない。今は総枠の議論をしている感じです。ある程度、ある時点で絞り込んだ議論をしなければならない。進め方の中ではどうですか。

課長 総枠の話は今回スケジュールもお示しできてということなので、先ほどの整備計画書の初稿を次の時にはお示しして話をさせていただくことになると思いますので、これからより具体的な話に持っていきけるのではないかと考えています。

委員長 亀井委員さん、今まで、もやもやとした議論しかできていない。総枠的な議論をして、方向性を示しながら絞り込んでいくということなので。

亀井 分かりました。

委員長 今日はこういうスケジュールで進めていきますよとのご確認をいただいて、次回はより具体的なことで。

課長 この案よりももっと早めにして、公開という方向だと受け取りましたので、先ほどの計画にも反映させたい。

委員長 よろしいですか。八百津の関係は見ていただいたのでよろしいですね。

課長 はい、すばらしいのですが、遠かったです。

委員長 年間でそれくらいの入場者ですか。

課長 年間でです。

委員長 結構もったいないですね。そんなものですか。美術館とか、カフェとか、レストランとかはともかくも、見せるというだけの程度でしたら。

課長 ここではむしろ、杉原千畝という「日本のシンドラー」と言われた方がこの出身でその記念館も作ってしまして、むしろそちらに力を入れているようです。

吉川 今日はまだ議論する時間はありますか。

委員長 はい、まだよろしいです。

吉川 今日で3回目で、2時間程度と短いですが。もう少し集中的に議題を決めてしてほしいなど、私は思います。今の亀井委員のお話のように観光なのか、産業遺産なのかの問題も一番の根本になる議論だと思います。それについては私も言いたいこともあるのです。そのあたりから一度詰めて議論していかないと具体的な話からいくと話がまとまらない気がするのです。

委員長 そのことでは事務局、今までの議論の中でも結構出ていますね。ある程度活用について、いわゆる範囲と言うか、方向性と言いますか。そのあたり、まとめまして次回、吉川委員

が言われたように議論を深めれるようにしてはどうかと思います。結構いろいろと出ていると思います。整理して、誰がどうだというのではなくして。整理してもらえますか。

課長 はい、できるだけ早めに。

委員長 それを絞り込んでいくという方向で。

課長 はい、分かりました。

委員長 最初はどうしても、いろいろな立場の方がいらっしゃるので。良いとか悪いかとではなくて。ものの見方、考え方でずいぶん差が出てくるし、ある面では生活に密着した部分の生活道路をどうするとか、橋をどうするとか、次元が違うから、ずいぶん広がりがある。いくらでもこういう話は乗せられる。最初から絞り込むのはどうかと思い、委員長としては自由に発言していただいた。ある程度から整理していく目論見でしていたので、そろそろ、ご意見も出ましたので整理して、詰めれるところは詰めて。詰めたから戻れないというのではなくして。

課長 検討委員会の冒頭で申しましたように端出場水力発電所というのは近代化遺産として新居浜市の中でも指折りのものだし、観光資源としても指折りのものだと考えておりますので、良い方向で検討委員会の中でまとまったらいいと思います。

委員長 今日はそういうことで、吉川委員、今までに議論もまとめながら、やっていきたいということですが。

吉川 何かの機会に私の意見も述べたいなと思っています。

委員長 時間もそれなりの時間内で議論していきたいし、頻度もちょっと。

課長 今回は間が空きすぎたのですが。次回は整備計画書の前に、今までの議論を整理したうえで、展示内容、方向とか、整理して、できるだけ早めにやりたいと思います。計画書は間に合わないと思うので、その間に差し入れたいと思います。

委員長 他にございませんか。

仙波 今日の議論とは違うのですが、広瀬歴史記念館のホームページはないようです。市のホームページでは一部紹介がありますが、もう少し充実したホームページを、市のホームページとは別に作られるべきだと思っています。

課長 意見としては伝えておきます。スポーツ文化課のことですので沢田委員よろしいですか。

沢田 確かに市のホームページの中から広瀬歴史記念館にたどり着くようになっています。他所では広瀬歴史記念館と検索するといけるようなところが多い。

課長 ただ、住友の広報委員会ではむしろ、広瀬のバーチャルでまるで中を歩いているかのようなものを作ってくれています。広瀬の中の情報が出ていなくて、特に、館報を毎年出しているのですが、おそらくほとんどの方は見たことがないと思います。館報とかは私共でコピーを取って公開しようということで今年の事業として進めています。広瀬の資料を見たい時には今年中にはそれを提示できるようになるかと思っています。

委員長 他にございませんか。

吉川 このスケジュール案で重要文化財に申請するのはいつ頃になるのですか。

課長 報告書を作ることが何より必要になってくると思ひまして、この報告書を持って価値があるかという判断になるかと思ひますので、この2年の間（平成25年、26年）にこちらからアクションをかけていくということになると思ひます。

亀井 端出場には、水力発電所だけでなく鉄橋などの他の物件もありますが。

課長 いろいろな話が文化庁とも以前からあります。足尾銅山では、一部が国の史跡になりました。元々の通洞という坑口から入ってくる通路ですね。別子銅山で言えば、第四通洞になるようなところですね。中の一部分だけで、途中からは古河が閉鎖しているのですが、その部分だけで国の史跡になっております。あとは昔の火薬庫、火薬棟なのですが、それも国の史跡になっております。別の例では、石見銀山では1970年頃から国の史跡になっていました。別子銅山の場合は、これが特徴でもあるし、良いことでもあります。現役施設という側面もあります。端出場の物件の中にも現役物件がありまして、たとえば、第四通洞のとらえ方と言う問題で、坑水処理もしており、現役施設の側面がかなり強い施設です。また、先ほど言われた鉄橋ですね。登録有形文化財になっておりますが、あれらも含めて、国の重要文化財にもっていけないのかというのは一つの考えであると思っています。そのことも文化庁と話をしていかなければならない。何より端出場水発単独並びに貯水池だと思っています。貯水池と水路が一部入ってくると思います。吉野川から水を持ってきた鉾山の発電所だという特徴を訴えかけたいなと思っています。

委員長 他にはございませんか。それでは次回の宿題が出ておりますが、次回は概ね、いつ頃になりますか。8月のお盆明けごろですか。

課長 その頃でしょうね。

委員長 また、より具体的な議論になろうと思いますので、委員の皆様それぞれにつきましても、検討方をよろしくお願ひしたいと思ひます。事務局から他にありませんか。

課長 ありません。

委員長 それでは本日は終わりたいと思ひます。ありがとうございました。